



あたけがわ

### 国の天然記念物に指定される阿嶽川のマングローブ林

中種子町の阿嶽川河口にはメヒルギの群落が発達しています。メヒルギは潮間帯にできる森林をつくる植物として東アジアでは最も緯度の高いところまで分布し、種子島は自然分布として北限にあたります。周辺はウバメガシ林やイヌマキ林に囲まれ、ハマジンチョウやハマボウ、ヒトモトススキなどの汽水性の植物も多く、落ち着いた森林景観となっています。

## 「花」

館長 川原裕明

この夏、少しばかり早い夏休みをとり北海道を旅行しました。この時期以外にも訪れたことはありましたが、北海道の短い夏の雰囲気味わいたかったこと、特にこの瞬間(とき)を待って一斉に咲く花々を一度は見たいと常々考えていたからです。

車で走っていると、自然の状態で様々な花が咲く草原地帯、



いわゆる原生花園があちらこちらにあり、その色鮮やかさに心が癒やされました。冬の厳しい寒さと雪に覆われる環境の中でじっとこの夏を待ち、今とばかりに咲く花々にいとおしさを感じるほどでした。それと同時にどんな名前であるのか、どんな植物の仲間なのかなど、知りたい気持ちが湧き上がってきました。この場合、

図鑑やインターネットなどを利用して調べることができても、やはり本物を目にすると微妙な色彩や形、何よりそのものが持っている独特の雰囲気がわかっているだけに、図鑑などで見ると物足りない感じを受けるのは私だけではないと思います。

その点において博物館の果たす役割が大きいのではないのでしょうか。植物の場合、動物のはく製や昆虫の標本のようにそのものの形や色をとどめておくことは困難です。このため、本物をそっくり再現したレプリカとして資料とする方法がとられています。精巧に作られたレプリカは、まさに目の前に本物があるようにわれわれはいつでも目にすることができます。鹿児島県立博物館においても、県内を中心に貴重な植物のレプリカを収蔵しています。ぜひ来館して本物に近い「花」などを見ていただきたいと思います。

## 企画展が面白い ぜひおいでください！

まもなく開催の企画展

### レッドリストの生きものたち

10月1日（木）～11月29日（日）

ここ数年はシラスウナギ漁の不漁が続いたために、日本最大の養殖ウナギ生産量を誇る鹿児島県の養鰻業界は、種苗不足で大きな影響を受けました。そして、ついにニホンウナギがレッドリストの絶滅危惧種に選定されたということを、報道で知った方も多かったと思います。レッドリストというのは、絶滅のおそれのある野生生物をリストにしたものことです。

それでは、レッドリストは一体誰が作っているのでしょうか。国際的なレッドリストは国際自然保護連合（IUCN）が作りますが、日本国内では環境省や都道府県などが作るレッドリストもあります。鹿児島県では平成15年に最初の県レッドリストが作られましたが、最近の環境の変化や、最新の研究成果などによりリストの見直しが必要となり、平成26年に県レッドリスト改訂版が作られ、現在では872種の生物が選定されています。

そして、レッドリストに選定された生物の詳細な情報を掲載した刊行物がレッドデータブックです。平成15年に発行された県レッドデータブックは、動物編と植物編を合わせると約1300ページという膨大な分量で、まるで分厚い電話帳のようです。このことは、南北600kmもの県土に多様な生物がたくさん生息していることと同時に、現在危険な状態におかれている生物も数多くいることを示しています。今年度中には、県レッドデータブックの改訂版が刊行される予定になっているので、こちらもご注目ください。



県レッドデータブック（平成15年発行）

（左）植物編，（右）動物編

かつては鹿児島にもすんでいたツキノワグマやニホンオオカミ、ニホンカワウソなど多くの野生動物が既に絶滅してしまいました。レッドリストやレッドデータブックを通じて多くの人に環境保全への理解を深めてもらえれば、今後は少しでも生物の絶滅を防ぐことができるかもしれません。今回の企画展では、当館が収蔵しているレッドリスト選定種の標本などを、多数展示します。企画展を観覧して、今後失ってはならない鹿児島の貴重な生物を知っていただければと思います。

### 種子島の自然

12月19日（土）～2月28日（日）

種子島は標高も低く起伏が少ない島です。大陸棚の東端に位置し、地殻変動によって沈降を繰り返しその後隆起したため多様な海や陸上生物の化石が発見されています。

また、日本で最も古いといわれる落とし穴遺構や旧石器時代の遺跡があるなど、古くから人が住んできた地域です。このため、種子島の自然は人間の生活の影響を受けて現在の姿になりました。

黒潮の影響を受け亜熱帯地域の入り口に当たるため、亜熱帯域の生き物と温帯の生き物が共存する特別な場所です。

特に海岸部は日本でも有数の砂浜の自然海岸線があり、生物相も豊かです。植



種子島本村の海岸林を見下ろす

物ではツキイゲやスナヅルなどの亜熱帯植物やコウボウムギやハイネズなど温帯性の目を見張る植物群落が見られます。

動物相も砂浜にすむハンミョウや草原の昆虫、マゲシカやコイタチなどの哺乳類もいます。

展示では、豊かな島の自然を紹介します。



## <写真展> 百年の記憶 ~ウィルソンの見た鹿児島島の自然

世界自然遺産屋久島のシンボルの1つであるウィルソン株を発見したのはハーバード大学のウィルソン博士です。

プラントハンターであった博士は日本の針葉樹およびサクラを紹介する目的で、1914年（大正3年）に家族とともにやってきました。日本に着くや家族をおいて野生のスギの調査に屋久島に向かい、2月22日運命の切り株に出会い、ウィルソン株の名が後世に付されました。

その後翌年の正月までと1918年の再来日を含め、沖縄、小笠原から北海道、当時日本領であったサハリン、韓国、台湾を調査しました。調査にあたり、標本と正確な写真、記録を残しました。写真は国内で約750枚撮影したものが残されていますが、そのうち約150枚が鹿児島県内のものです。

1914年は、折しも大正大噴火の年であったことから、噴火2ヶ月後で未だ熱の残る溶岩流と火砕流で壊滅した集落写真など強烈な写真もあります。また、前年の「大日本老齡

樹番付」で東の横綱になった蒲生のクスノキの写真も2枚あります。

今回の写真展では博士が100年前撮影した写真と同位置・同アングルでプロカメラマンに写真撮影をお願いしました。この写真と比較すると100年間で、自然がどう変わったがわかります。また、ウィルソンは植物の大きさを比較するため、一緒に人物を写していますが、このことにより樹木の大きさの変化だけでなく当時の服装・身なり、生活がよくわかります。

2つの写真を見て、100年間でなぜ、このように変わったかを推察するのが今回の写真展の一番の楽しみとなることでしょう。

博士の残した写真は多くのことを雄弁に語りかけてきます。



企画展リーフレットから

## <企画展> 「花に集まる昆虫」を開催して

平成27年7月4日から9月13日まで、企画展「花に集まる昆虫たち」を開催しました。この企画展の狙い、来館者の反応などについて振り返ります。

昆虫分野で企画展を作るとき、「へえ〜」と思われることを1つは盛り込もうと意識しています。今回は「花と昆虫は仲良しなのか？」という点について問いかけました。実際は虫も花も相手のことを考えてはいません。ツツジからツツジへと花粉を運んでいるハチは、ツツジの花びらにある蜜標を頼りに蜜のありかを探っているの、まるでツツジのために花を巡るように見えます。蜜標は虫に覚えてもらえるように、ツツジが進化の過程で手に入れた戦略の1つです。



ツツジの蜜標

今回の企画展では、虫と植物の進んだ「共進化」として、ウラジロカンコノキとハナホソガの一種の関係に焦点を当てました。この新種と思われるハナホソガのメスは、カンコ

ノキの雄花から花粉を集め、わざわざ雌花に運んで受精させます。そのためにストロー状の口には花粉を絡みつけるためのトゲ状突起まで備えています。そうして受粉させた花に、ハナホソガは1つだけ産卵します。カンコノキにできる6個の種子のうち、ハナホソガの幼虫は2つだけ食べてサナギになります。お互いにうまくいっているように見える関係で



産卵するハナホソガ

ますが、もしハナホソガが裏切って2つの卵を生み付けると、カンコノキは種子を实らせる前に雌花を落としてしまいます。つまり、裏切り行為には報復を用意して対抗しているために、美しく見える関係が維持されているのです。

来館者数は目標に届きませんでした、「こんなしのご合いをしているとは思わなかった」という驚きの感想を聞く度に、今まで気づかなかったことを提供するという目標を達成できたと、嬉しく思いました。

展示コーナー紹介

薩摩隕石



今年の4月、本館が収蔵する『薩摩隕石（国際名称：九州隕石）』が県の天然記念物に指定されました。薩摩隕石は1886（明治19）年に、県北部の伊佐地方に落下した一群の隕石です。日本では7個現存し、本館を含む4つの施設に収蔵されています。薩摩隕石は石質隕石のコンドライトと呼ばれるタイプの隕石で、表面は溶融皮膜が顕著であるとともにレグマグリッと呼ばれるくぼみが見られます。

薩摩隕石の多くは国外に流出し、大英博物館など多くの博物館に展示されています。本標本も2001年に国外から購入したものです。国外に出ていた薩摩隕石がようやく鹿児島に里帰りできたのです。

本館では薩摩隕石の常設展示はしていませんが、9月18日～23日の期間に特別に展示します。鹿児島に落下した本物の隕石をこの機会に是非ご観覧ください。

楽しい実験・天文教室の紹介

博物館では、毎週土・日曜日に「楽しい実験」、毎月第2・4日曜日には「天文教室」を行っています。

月	楽しい実験	天文教室
10	スズメバチをさわろう	お日さまが教えてくれる時計
11	まわれ、独楽・こま・コマ	ゆらゆらゆれる「惑星モビール」

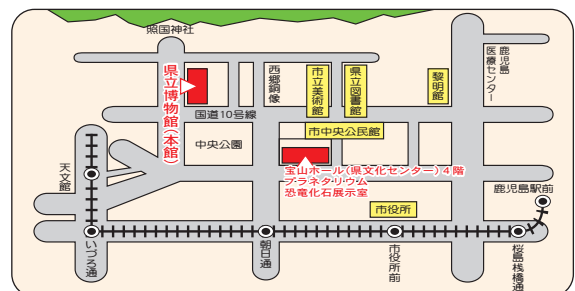
月	楽しい実験	天文教室
12	ジュズダマでかざりをつくろう	とべとべ！たこ
1	星砂をさがそう	ガラスの絵の具で星を描こう！
2	ドングリであそぼう	割りばし飛行機を飛ばそう！
3	どべ！ユビコプター	光る誕生星座かざり

博物館科学教室の紹介

フィールドに飛び出し、本物の自然に触れる「博物館科学教室」。人気があり、キャンセル待ちが出るほどです。事前予約が必要ですので、お早めに申し込みください。

実施日	科学教室内容
10月11日(日)	火山の贈り物 カワゴケソウはどこだ
10月25日(日)	アサギマダラ大作戦
11月1日(日)	化石発掘体験
11月15日(日)	城山植物ウォッチング
12月6日(日)	桜島まるごと再発見
12月20日(日)	木の実でクリスマスかざりを作ろう
1月17日(日)	磨いて作る宝の石
1月23日(土)	身近な野鳥観察
2月6日(土)	干潟の野鳥観察
2月21日(日)	化石レプリカを作ろう
3月6日(日)	街かど化石探検隊
3月20日(日)	マングローブって何だ

●鹿博だより 編集・発行 鹿児島県立博物館  
〒892-0853 鹿児島市城山町1番1号  
TEL 099-223-6050 FAX 099-223-6080



ホームページ <http://www.pref.kagoshima.jp/hakubutsukan/>